

●学校支援情報●

岡崎むかし館通信

vol.18



<http://www.city.okazaki.lg.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。

年度末を迎え、改めて様々な取り組みを振り返り、多くの反省すべき点を感じます。むかし館が多くの方にとって、必要な施設と認識されるように、改善を心がけたいと思います。

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩くー岡崎市鉢地町ー



コウジンの森での神事

今回は、岡崎市鉢地町で現在も続けられている「テイチン講」という山の神祭りについて報告をします。テイチン講は、かつて旧暦11月第二申の日に行われ、ムラの3歳（「初山の子」と称す）以上の男子全員に参加が義務付けられていました。祭りの当日、本宿・相宿の2つの宿が設けられ、朝早くから、オタガネ、オタル、オコワ、シメナワ、ゴヘイ、火熾し（火錐）などの準備をしました。祭りは、「コウジンの森」と呼ばれるご神体の檜の大木がある森で行われ、ゴゼン（赤飯のおにぎり）が75個供えられ、般若心経が読み上げられました。この祭りは、ムラで一番大切な祭りとして昭和38年までは賑やかに行われていましたが、担い手である若い世代の減少等の理由で、12月20日のムラの他の行事と合わせる形に簡略化されてしまいました。

しかし、簡略化された現在も、昭和38年の最後の盛大な祭りを経験された人々が中心となって、現在もテイチン講は伝承されています。鉢地町にとって大切な祭りであることの意味を子どもたちに伝え残して行こうとする思いがしっかりと伝わってきました。特に祭りの終わりに係りの人が、子どもたちに、「山の神が春になると田の神として鉢地町に降りて来て、鉢地町の田畑に豊作を



昭和38年のテイチン講「ゴゼンの配布」



もたらせてくれるのです。そして、収穫が終わり、また山に帰っていくので、それを感謝して送り、来年も豊作をもたらせてくれることをお願いするのです。」と、テイチン講の意味を、ゆっくり丁寧に話をされる姿が印象的でした。ゴゼンを嬉しそうに頬張^{ほおば}っていた子どもたちのとてもすがすがしい表情から、地域の人々の温かさを感じました。子どもたちが地域で大切に育てられていることを実感したひと時でした。

むかし館の活動より

出前授業を行いました

三学期は、小学校第3学年が「くらしのうつりかわり」について学ぶため、多くの学校がむかし館を利用します。しかし、バスを手配して来館することもできず、見学が困難な学校もあります。そうした学校からは、「出前授業」の依頼があります。各校の先生と事前に打ち合わせを行い、あらかじめ道具を準備していただいたり、野本主任専門員のパワーポイントを使用した解説などを行います。クラスごとあるいは、学年全体で実施するなど様々です。子どもの予想外の反応に刺激を受けながら、こちらも試行錯誤です。今後も、むかし館に様々なご要望をお寄せください。(※野本主任専門員の出前授業は、必ず事前打ち合わせをお願いしています。)



六ツ美南部小学校 第3学年(クラスご)



北野小学校 第3学年(合同)



平成27年度も多くの学校の第3, 4学年を中心に、むかし館を利用していただきました。しかし、むかし館の所蔵するちょっと昔の道具は様々な切り口で、他の学年でも活用できると思います。気軽にお問合せください。

●編集/発行(隔月) 岡崎市長中央図書館・企画班 平成28年3月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展示「くらしの道具ー今と昔ー⑫包む・蓄える」 ~ 3/22】

次回 【企画展示「守り伝えるー能見神明宮大祭」 3/24 ~ 5/17】
ー祭りの歴史を語る資料を初展覧ー